

事務事業評価シート

1 基本情報

1 基本情報		事業番号		060101010900		事業の種類		4	
年度	25	事務事業名	まちづくり活動支援事業	予算事業名	あいおい元気アップ支援事業	優先度	3		
まちづくり目標		まちづくり目標推進のために		担当部局名	市民生活部地域振興課				
施策名(中)		市民力あふれるまちをめざす		担当課長	三宅 淳一	担当者名	藤岡 周平		
取組み事項		市民参加型のまちづくりシステムを構築する		実施計画への記載	無	主要事業の指定	無		
実施計画事業名									
根拠法規及び関連法規		あいおい元気アップ支援事業助成金交付要綱							
事業の目的	誰のために(具体的に)	市民							
	誰(何)を対象として	まちづくり活動に既に取り組んでいる市民及びこれから取り組もうとする市民							
	意図(どのような状態にしたいのか)	まちづくり活動を自主的に行うグループに助成を行うことで、相生の元気の芽を育て、まちの活性化を図る。							
	事業の全体年度	事業着手年度	(年度)		事業完了予定年度	(年度)			

2 事業の概要 Do

実施の概要		まちづくり活動に取り組むグループに対する助成及びその他のサポート					
活動実績	項目	単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
	元気アップ支援事業	申請数	2	4	4	3	

3 投入資源

3 投入資源		会計区分	一般会計			事業費単位:円			
インプット指標		23年度決算	24年度決算	前年比	25年度決算	前年比	26年度予算	前年比	備考
人員	部長以上職員	0.024	0.024	100	0.026	108	0.027	104	
	参事以下職員	0.144	0.120	83	0.120	100	0.140	117	
	臨時職員	0.052	0.076	146	0.076	100	0.076	100	
支出内訳	人件費	1,574,308	1,416,444	90	1,425,286	101	1,640,581	115	
	事業費	240,638	521,700	217	624,800	120	570,000	91	
	合計	1,814,946	1,938,144	107	2,050,086	106	2,210,581	108	
財源内訳	国庫支出金			-		-		-	
	県支出金			-		-		-	
	市債			-		-		-	
	その他			-		-		-	
	一般財源	1,814,946	1,938,144	107	2,050,086	106	2,210,581	108	
	合計	1,814,946	1,938,144	107	2,050,086	106	2,210,581	108	

※ 事業の進捗状況

項目		23年度	24年度	25年度	26年度	
全体進捗率	事業費累計					
	進捗率					

4 評価指標

【有効性】

指標名1		まちづくり活動支援事業申請数							
指標説明(式)		まちづくり活動支援事業申請数							
指標単位	区分	23年度	24年度	前年比	25年度	前年比	26年度(計画)	前年比	備考
	目標	4	4	100.0	4	100.0	3	75.0	
	実績	2	4	200.0	4	100.0			
指標名2		あいおい元気アップ支援事業助成金交付終了後の活動継続率(%)							
指標説明(式)		活動継続団体/助成金交付団体総数							
指標単位	区分	23年度	24年度	前年比	25年度	前年比	26年度(計画)	前年比	備考
	目標	100	92.9	92.9	86.7	93.3	82.3	94.9	
	実績	92.9	85.7	92.2	80	93.3			

【効率性】

指標名1		1助成グループに要するコスト							
指標説明(式)		事業費(助成金除く) / 認定グループ数							
指標単位	区分	23年度	24年度	前年比	25年度	前年比	26年度(計画)	前年比	備考
	目標	393,577	337,791	85.8	356,321	105.5	546,860	153.5	
	実績	687,154	229,111	33.3	362,521	158.2			
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	23年度	24年度	前年比	25年度	前年比	26年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(25年度実績) Check

評価視点	具体的な評価視点	評価コメント及び現状認識	担当課評価
妥当性	目的の妥当性	目的型市民活動を支援することは、協働のまちづくりを行っていく上で、まちの活性化には不可欠である。	4
	市民ニーズ	市民会館等での各種団体の活動からも潜在的ニーズはあると考えるが、その中で新たな活動グループの申請が見込めず、申請数は伸びていない。	
有効性	成果目標(改善)達成度	本事業をきっかけとして、自主的に活動を行うグループ、人材が助成終了後も活動を行っている。	4
	市民サービス	助成グループが自主性や創造性を発揮し、多様な活動を行うことでまちの活性化に寄与している。	
効率性	執行体制の効率性	申請数の減少で、1件当たりの事業費が高くなっている。	4
	手段の最適性	公開審査会、公開報告会により、活動の透明性を確保し、適正に予算を執行できている。	
進捗状況	事業計画に対する進捗状況	市民会館等での各種団体の活動からも潜在的ニーズはあると考えるが、その中で新たな活動グループの申請が見込めず、申請数は伸びていない。	2

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価視点	内容
妥当性	市民ニーズ	市民会館等での各種団体の活動からも潜在的ニーズはあると考えるが、その中で新たな活動グループの申請が見込めず、申請数は伸びていない。



7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた26年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価視点	内容
効率性	手段の最適性	対象団体が減少している要因の一つとして、申請団体が一巡した感があるため、新たな人材の発掘又は、助成対象の変更等が必要。

配点	32.5
総合評価	22

(2) 27年度以降の改革改善内容

区分	内容
重点事項	事業のPRを行い、申請団体を増やし、市民活動団体を支援する。
見直事項	対象団体が減少している要因の一つとして、申請団体が一巡した感があるため、新たな人材の発掘又は、助成対象の変更等が必要。
新規事項	市民活動に取り組む次世代のリーダーを発掘し、また、育成するセミナー事業の実施を検討する。
方向	継続 成果 維持 総コスト 維持